

# 読書メモ 2017年2月号

山田由美子著

『原初バブルと《メサイア》伝説』（世界思想社）ほか

やなぎさわかつひろ

柳沢克央（上田仮説サークル）編

2017年2月18日（土），2月例会用レポート

## ◇はじめに

先月号の「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

## ◇読書記録または読書メモ（順不同）

◎山田由美子著『原初バブルと《メサイア》伝説』（世界思想社・2009年）（私物）

原初バブルとは1720年に英国で起きた経済事件，南海泡沫事件のこと。メサイアはヘンデル作のオラトリオ（宗教音楽の一ジャンル）。ハードカバーで詳細な索引あり，文献目録も充実。本格的でとにかく気宇壮大な本。本書全体の構成は次のとおり。

序章／隠蔽されたオペラとバブル

第1章／イングリッシュ・コネクション

第2章／王位争奪戦

第3章／安定までの試練

第4章／黄金時代の構築

第5章／膨張と崩壊

第6章／金融クーデター

第7章／オペラの死闘

第8章／果てしなき四旬節

終章／復活の日

エピローグ 以上

以下、要点抜き書き，および各章の要約

序章

○1719年，英国に王立音楽アカデミーが設立された。ここに主任作曲家として破格の待遇で採用されたのがドイツ人のヘンデルであった。

○英国はヘンデル没後100周年を記念して，その芸術性の頂点を示すはずのオペラ作品を一編も再演しなかった。

○ヘンデルのオペラが不振に陥った最大の原因はアカデミー設立の翌年1720年に起きた「南海泡沫事件」の余波にあった。

○南海泡沫事件を倫理問題に置き換える解釈の骨子は「南海会社取締役の内部組織が政府を買収し，国債の所有者に対する詐欺行為を看過させた」というものである。ところが，ニール，ガーバー以降の研究によって，南海会社の国債転換計画は取締役の独断による詐欺行為ではなく，他国の急激な経済攻勢からイギリス経済を防衛するための緊急手段として取られた正当な国家政策であったということが判明している。値崩れの直接の原因は，無許可の泡沫会社を潰す「バブル法」の執行にあったが，自由経済市場についての知識が不足していた当事者の不見識を責めることはできないという。

○それではなぜ，事実の歪曲が行われたのだろうか。従来型の解釈のほとんどが主典拠としているアダム・アンダーソンの『商業の起源に関する歴史年代別推論』（1764～88）は，南海泡沫事件収拾の功績によって長期政権を獲得した第一大蔵卿財務府長官ロバート・ウォルポールの政治色に染まったもので，必ずしも正確な事実を反映していない。ウォルポールが1721年から42年まで，21年間というイギリス史上最長の期間，政権を保持したため，以後，この見解が定着することになった。

ウォルポール政権（ロビノクラシー）の成立と同時に書き換えられたもう一つの歴史がある。南海泡沫事件の収拾過程でクーデターが発生し，一つの政権が歴史上から消滅した。1714年にドイツから招かれて54歳で即位したハノーファー選帝侯ゲオルグ・ルートヴィヒことジョージ一世（1660～1727年）の政権である。

○二十世紀後半までのイギリス史においてジョージ一世は「無能なドイツ人の国王」ということになっている。だが、ジョージ一世は決して「無能な」為政者ではない。  
○南海泡沫事件後、ジョージ一世の実態と功績の大部分が、大量の文書と共に抹消されたのである。

○最も重要な点は、ジョージ一世の王位継承が、一般に信じられているように、不本意に受け入れた偶然の産物などではなく、周密かつ遠大な構想に基づき、対立候補のジェームズ・フランシス・エドワード・ステュアートと遠隔操作による熾烈な争いの末に達成されたということである。

○ジョージ一世が即位する四年前から、ヘンデルは、オペラを普及させるという名目で、イギリスに一年以上滞在し、いったん帰国してから一年後に再度渡英し、そのまま定住する。従来、ヘンデルの自己本位に帰されていたこの行為は、王位継承工作の一環であったことが判明している。ジョージ一世の即位後、ヘンデルのオペラは、王立音楽アカデミーを通してその政治理念を浸透させるためのプロパガンダとして作用することになる。

○ジョージ一世の経済政策を支えたのが南海会社であった。名誉革命時にオランダから招聘されて即位したウィリアム三世は、1694年に公的信用拡大（国債の流通性の向上）のためのイングランド銀行を立ち上げ、政権の支えとした。ジョージ一世はこの例に倣い、衰退気味のイングランド銀行に代わって新たに台頭してきた南海会社を後ろ盾とする。やがて政権が安定し、政策も順調に進むが、1720年の金融恐慌によって南海会社が経営危機に陥り、経済的裏付けをなくしたジョージ一世は政権を喪失したのである。

○ジョージ一世は、経済大国イギリスの「占領」によって何を達成しようとしたのか。ジョージ一世政権の成り立ちに関わり、政変による精神の荒廃と文化水準の低下を支えた音楽家ヘンデルの活動を通してそれを再現するのが、本書の目的である。

## 第1章／イングリッシュ・コネクション

ヘンデルは若い頃にイタリアで音楽教育を受けた。イタリアはスペイン継承戦争（1701～14）の影響で衰退期にあった。イタリアで学んだヘンデルは1710年にハノーファー選帝侯ゲオルグの招きで宮廷楽長に就任した。イギリスは文化国家への昇格を実現するためにヘンデルを招き、ヘンデルは有給休暇を取ってイギリスに赴き、オペラを作曲して成功した。近年の研究で、ヘンデルは英国の政情を探るためにゲオルグ

が送り込んだ「スパイ」であったとの見方が出てきている。

## 第2章／王位争奪戦

ヘンデルは自発的かつ積極的にトーリの和平工作に荷担した。これによりヘンデルは信用を獲得し、侍医のアーバスノットの行動から、王位継承の最大の鍵となる女王の健康状態を探り出し、逐一ドイツに報告していたらしい。

## 第3章／安定までの試練

1714年10月、ハノーファー出身のゲオルグはジョージ一世として即位。間断なく変化するヨーロッパ情勢に対応するため、毎年の帰郷を必須とした。1717年、《水上の音楽》が川遊びで演奏される。

## 第4章／黄金時代の構築

1719年、王立音楽アカデミー設立。恒常的にオペラを提供する株式会社として結成され、21年間、オペラ興行独占権を獲得。実質的にはヘンデルの新作オペラを恒常的に提供する組織。この計画はすでにハノーファー時代にゲオルグが構想していた可能性がある。当時のヨーロッパにおいてオペラは国民の資質を証明する「文化的信用」の役割を果たしていた。ジョージ一世による黄金時代に南海会社も飛躍的發展を遂げた。

## 第5章／膨張と崩壊

157 ページにバブル全体を俯瞰するグラフが掲載されている。ここで本書の一つの「頂点」を成す。1720年9月23日、英国の発展と繁栄を支える南海会社が破綻。債務不履行の連鎖が国中に広がった。ジョージ一世の内閣は南海会社とともに壊滅状態となった。この破綻を「収束」したのがウォルポールであった。

## 第6章／金融クーデター

ウォルポールはこの機に乗じてイングランド銀行の資本を増強させることに成功。ウォルポールを通じてイギリス政府を掌握したオランダは雪辱を果たした。ジョージ一世はウォルポールの罠に落ち、自由を奪われたが、並外れた知謀と予知力、不撓不屈の精神でこれを乗り切った。

1723年にオペラブームが起き、1726年、ヘンデルは英国への帰化を正式に許可され押しも押されもせぬ劇場芸術の筆頭となった。しかし、直後の1727年、ジョージ一世が死去した。普通ならば退任するウォルポールだが、巧みな権謀術数で政権の中枢に居座り続けることに成功した。

## 第7章／オペラの死闘

個々の国民が恒常心を保持するかぎり、国家が大きく衰退することはない。国家が健全さを失い、諸芸諸学が本来の機能を果たさず、何が正で何が悪かわからなくなった混濁の世において、ヘンデルのオペラは最後まで理性と冷静さを失わずに生き抜くすべを一人ひとりの観客に授けた。ジョージ一世とヘンデルの共闘の神髄はまさにこの点にあった。開戦ムードが高まり、ヘンデルはしだいに窮地に追い込まれていく。

## 第8章／果てしなき四旬節

1742年、ウォルポールが失職し、理性の時代が終わりを告げた。ヘンデルはオペラからオラトリオをつくる方向へ転じた。目的はオラトリオは新興中間階級の支持を受ける音楽形式だったから。愛国心のイデオロギーの裏に隠れた加虐趣味的な欲望の欺瞞性を暴き出している(?)。有事における世相の変化を克明に記した音楽の「年代記」としてヘンデルは一連のオラトリオを残した。1758年、ヘンデル死去、享年74歳。

## 終章／復活の日

ヘンデルは莫大な財産を南海年金をはじめとする各種年金公債で手堅く運用していた。自らの申し出により、ウェストミンスター寺院でしめやかな葬儀が営まれた。

ヘンデルのオラトリオには「両面性」があり、聞き手の人生観、教養、あるいは音楽的感覚の度合いによって、台本と正反対のメッセージを読み取ることが可能である。

ヘンデルの時代の知性は、すでにキリスト教の枠を超えて、汎神論的な信教の自由を目指していた。

ヘンデルの《メサイア》では最高音部が「王の王、主の主」と同じ音程を保ちながら揺るぎなき口調で朗唱すると、他の声部が「世々限りなく、ハレルヤ」と熱意をこめて賛同する。音程と緊張を順次高めて、これが六回繰り返され、ついに最高声部が第七音の音程に達したとき、全声部が「主の主」と即位を宣する。聴く者は、その効果に圧倒される。

若いころ、学識も芸術感覚も群を抜いていたローマ教皇と対峙したヘンデルにとって、その両方で遠く及ばぬイギリスの偽善的狂信者を相手にするのは、赤子の手をひねるようなものであった。神聖な宗教の濫用が人心をがんじがらめにし、弱者を搾取しようとするとき、《メサイア》は強力な解毒剤として作用するであろう。

失われた《黄金時代》はメサイアの中に生きていたのである。

#### エピローグ

○世界に先駆けてヘンデルのオペラを再演した 1920 年代のドイツは、ナチス出現前の短い期間ではあるが、二十世紀の民主主義憲法の典型とされるワイマール憲法が導入されたところであった。イギリスがヘンデル・オペラの再演を真剣に検討し始めたのは、二つの世界大戦を経た 1955 年、ヘンデルの没後 200 年近く経過し、基本的人権と福祉制度を整えてからであった。そしてヘンデルの全オペラ作品が復活上演されるのは、ヨーロッパが長年の戦いをやめ、統一への道を歩み出してからになる。(抜き書き要約等おわり)

#### \*

こういう本のことを優れた歴史書と呼ぶのではないだろうか。歴史は繰り返す。著者は 18 世紀英国での出来事(文化国家の興隆とそれを支えた政治、そして金融バブル崩壊と戦争の時代への突入など)が現代と未来を見通すヒントとなるかも知れないことを意識しながら筆を執っているように見える。

とはいえ、この本の評価は難しい。なぜなら、この本を本当に理解するにはヘンデルの音楽に通じて、歌詞の内容と音楽の内容とが一致しているか、乖離しているかを聞き分ける知識を持っていなければならないからである。

とはいえ、著者の主張を認めながら、ヘンデルの音楽を解釈する楽しみは得られそうなので、そのつもりでまず《メサイア》の CD を通して聴いてみることにする。

◎福原義春著『私は変わった変わるように努力したのだ』(求龍堂・2010 年)(私物)

活字は少なく余白は多く、格言集のように構成されている。著者は 1931 年生まれ。資生堂社長、会長、名誉会長を歴任した人。かなりの読書家。40 分で読めるが、味読すれば時間はいくらでもかけられるだろう。読みやすい。印象に残った部分を書き出しておく。

○フランスの新聞記者「あなたの個人資産はどのくらいですか?」、福原「私の唯一の

財産は私のエスプリです。これは価値換算も売買もできるものではありません」(143 ぺ)

○荘子の言葉の中に「生命のない秩序よりも生命のある無秩序のほうがよほど尊い」というのがありますが、組織として完全に秩序立ててしまっ、しかしその中に命が通っていない、あるいは意識が通っていないよりは、組織としてはむちゃくちゃでも、生命の通った動きをするものがあつたほうが、はるかにいいと思います。(105 ぺ)

○学ぶことの大きな意味のひとつは自分なりの歴史観、哲学を持つことにあると思っています。言葉を変えていえば、自分自身の「考え方の原理」をもつということです。(167 ぺ)

○私という人間は今まで読んだ本を編集してでき上がっているのかもしれない。逆にいえば、本によって編集されたのが私なのだ。(179 ぺ)

○「感動」というのは、五感が最高に活性化されたときに訪れるものです。その時に、見えないものが見えてくる。(204 ぺ)

\*

笑いが無いのが残念だが、難しい本を読む合間に意図的に入れて読むと励まされる内容だと思った。

◎高倉健著『あなたに褒められたくて』(集英社文庫・1993年初版・2014年23刷)

俳優の高倉健氏(1931~2014)によるエッセイ集。きわめて読みやすい。私好みの珍しい話が盛りだくさん。口語風の文体から「聞き書き」であることも想像できる。なぜこういう題名になっているのかな~と思いながら読み進むが、なかなか解らない。最後の最後の話のタイトルがこれで、このエッセイを読むとストーンと腑に落ちるという構成になっている。ネタバレになるからこれ以上触れないが、この構成はちょっと「泣かせる」。

子どもの頃の思い出話から始まって、青春時代の思い出、丹波哲郎氏から催眠術を教わって、実際にかげられるようになったこと、映画の男性スタッフに馬用の下剤を飲ませてイタズラしたこと、役作りの時に習った居合道の話、ロケによる国内外への旅の思い出話、映画撮影の裏話など、本当に面白い話がたくさん書かれている。つけた付箋紙は約20箇所。

ファインマン著『ご冗談でしょう、ファインマンさん』にちょっと似ている。「面

白い思い出話」の「変数」を「米国の物理学者→日本の俳優」と設定し直してできた「出力」とみなすことができる雰囲気を持つ。

高倉健氏の映画はきちんと見たことがなかったが、この本を読んだら映画を見てみたくなった。この本も忘れた頃に再読したいと思った。名女優・高峰秀子氏の『私の渡世日記』や数々の名エッセイ集を思い出した。

◎関良基著『赤松小三郎ともう一つの明治維新』（作品社・2016年）（私物）

◎<sup>ほのお</sup>森炎著『裁判所ってどんなところ？』（ちくまプリマー新書・2016年）

◎齋藤孝著『新聞力—できる人はこう読んでいる—』（ちくまプリマー新書・2016年）

◎<sup>かじもとおさみ</sup>梶本修身著『すべての疲労は脳が原因』（集英社新書・2016年）

篠ノ井高校図書館で「点検読書」をして借りることを決定。通勤電車内で付箋紙をつけながら3日かけて読破。最新の知見は従来の常識を覆すものもあり、新鮮だった。以下に引用して記憶にとどめる努力を試みる。

○エネルギー時代が枯渇して疲労を起こすことは滅多にない。（9ペ）

○次の10項目について思い当たることがあるかどうか、確認してみてください。

ものごとはきりのいいところまでやらないと気が済まない。

ストレス解消のために体を動かすのが習慣である。

責任感があり、遅くまで残業しても苦にならない。

日中に眠気があり、大きないびきをかくと言われる。

集中力が高く、何かに没頭するとまわりがみえなくなる。

疲れたら栄養ドリンクをよく飲む。

屋外で過ごす時間が長い。

長時間のドライブでも途中休憩をあまりとらない。

熱めのお風呂に長湯をするのが好きである。

休日は遠くのテーマパークやアウトレットに足を延ばす。

以上10項目のうち、ひとつでも思い当たることがあれば、脳疲労が蓄積している可能性があります。（16ペ）

○「疲労」とは、医学的には、「痛み」、「発熱」と並んで人間の生体アラームのひとつと考えられています。（18ペ）

○楽しく仕事しているときほど「疲労感なき疲労」が蓄積されやすく、休まずに仕事を続けるこ



とで疲労は脳と体を確実に蝕み、果てには過労死にいたらしめるのです。(26 ペ) (仮説関係者は特に要注意！)

○「飽きる」「疲れる」「眠くなる」は脳疲労の三大サインとされています。(30 ペ)

○疲労をもっとも起こしやすいのは、じつは脳幹の間脳にある、自律神経の中樞の「視床下部」と、左右大脳半球間の信号を伝達する「前帯状回」と呼ばれる部位なのです。(38 ペ)

○「飽きる」「疲れる」「眠くなる」は脳疲労のサインです。この三大サインを無視して作業を続けていると、次には「視野が狭くなる」という症状が現れることがわかっています。(牧衷さんが「運動が行き詰まってくると、目が据わってくる」という趣旨のことを話していたことをこれで思い出した：柳沢)

○疲労した筋肉では乳酸の濃度は高くなるものの、それは筋肉のパフォーマンス低下とは関係がない… (65 ペ)

○乳酸が疲労をもたらす犯人ではないとしたら、何が疲労の原因となるのでしょうか。それは脳内で神経細胞を攻撃している「活性酸素」です。(66 ペ)

○日焼けを起こす紫外線をたくさん浴びると疲労が蓄積することがわかっています。疲労を軽減するためには、紫外線に徹底して注意する必要があります。(70 ペ)

○疲労因子 FF (ファティーグ・ファクター) の存在を明らかにしたのは、東京慈恵会医科大学ウイルス学講座の近藤一博教授です。2008 年に国際疲労学会で最初の報告がありました。(74 ペ)

○「疲労回復因子 FR (ファティーグ・リカバー・ファクター) は日常のある程度の疲労を回復させるように働こうとするが、日ごろ運動や仕事をしていない人が、急速に疲労感が高まるような行為をすることには反応せず、健康上危険である」

○本来なら、多忙な人ほど睡眠をたくさんとる必要があります… (106 ペ)

○人には暗くなったら眠くなるという本能が備わっています。社会が 24 時間化して夕方以降も明るい環境で過ごす時間が長くなりましたが、暗くなったら眠るという本能は変わりません。暗くしておかないとセロトニンからメラトニンが合成されず、眠りにくくなるのです。朝は光を浴びるべきですが、夕方以降は強い光を浴びないようにすべきです。(111 ペ)

○夕方はこってりした料理を避けて低脂肪で消化がよいメニューにし、眠る時間の 3 時間前には食べ終わるようにすると、自律神経にも眠りにも悪影響が及びにくくなります。(113 ペ)

○「疲れた」が口癖になっているビジネスパーソンが日常的に栄養ドリンクやエナジードリンクを飲み続けることは、疲労回復にとって明らかにマイナスに働きます。なぜなら、本当は疲れているのに、これらドリンクの覚醒や高揚をもたらす成分が、疲労を隠すマスキング作用を発揮するからです。(119 ペ)

○人の体は 37 兆個と言われる細胞で構成されています… (138 ペ) (1990 年頃の「60 兆個」よりだいぶ少なくなっているのはなぜか：柳沢)

○BCAA (Branched Chain Amino Acids) とは「分岐鎖アミノ酸」のことで、具体的にはバリン、ロイシン、イソロイシンという 3 つのアミノ酸の総称です。(142 ペ)

○マイナスイオンという言葉は和製英語であり、日本以外の国々では研究の対象にもなっていません。(148 ペ)

○一定の平均値から微妙にずれたある程度の「不規則な規則性」を持つ現象を「ゆらぎ」といいます。… (中略) …理想的な「ゆらぎ」を持つ日本家屋を捨てて自然とは隔絶された住宅に暮らす生活は、疲れをため込む一因になります。そろそろ違ったライフスタイルを考えるべきです。(155 ペ)

○照明が終日点灯し、朝から夜までエアコンで気温と湿度を一定に保って空気に「ゆらぎ」がない時間を長く過ごしていると、サーカディアン・リズムが乱れて自律神経が疲れ、慢性的な疲労や睡眠障害の引き金となります。(157 ペ)

○ドライブ疲れはどこから生じるのかを詳しく調べると、その大きな原因は、同じ姿勢をとり続けることにあったのです。(159 ペ)

○エコノミークラスに限らず、長時間のフライトでは一時間ごとぐらいに立ち上がり、トイレに行くなどして脚の血液を心臓へ環流させることを意識してください。(161 ペ)

○熱いお湯に全身浴で長く浸かり、しかも何度も入ると、確実に疲労が蓄積してしまうのです。(163 ペ)

○「ゆらぎ」に満ちた温泉を疲労回復に役立てるには、38 度～40 度のぬるめの湯に 10 分以内を目安に半身浴をし、入浴回数も 1 日に多くて 2 回までにとどめておくことが肝要です。(165 ペ)

○犬や猫のように何もしないのがいちばんの疲労回復になるのです。(169 ペ)

○記憶に感動が伴うと、意味記憶にはないエピソード記憶としての複数の多様なタグが生まれ、長期記憶に保管されていくこととなります。(184 ペ)

○日常的にワーキングメモリを鍛える 3 つの方法

ひとつ目は記憶を有効活用するために、ものごとを多面的にみる習慣をつけること

です。…

二つ目は、多くの人と会話をしてコミュニケーションをかわすことです。…

三つ目は世の中のいろいろな事象に興味を持ち、多趣味になることです。… (187 ペ) (要するに、上田仮説サークルに参加することがもっとも良い方法の一つである：柳沢)

本書で「疲労回復」という言い回しが出てくるがこれは適切ではない。正しくは「元気回復」であろう。「回復する」べきなのは「望ましい状態」である必要があるからだ。

著者は 1962 年生まれ。大阪市立大学大学院疲労医学講座特任教授。

◎長谷川<sup>かい</sup>權著『文学部で読む日本国憲法』(ちくまプリマー新書・2016 年)

著者は 1954 年生まれ。東京大学法学部卒。現在、東海大学教授、俳人。法学的なアプローチではなく、文学的なアプローチで憲法を読み解く試みとして本書を著す。結果として、本作は改憲勢力への静かなる抵抗を示す作品となっていると思った。内容は平易で、高校生でも十分に読める。気に入った部分や気になった部分を以下に引用する。

○谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』は谷崎が日本文化について書いた名随筆であるといわれています。しかし、果たしてそうなのか。日本文化とはそこで谷崎が描いているようなものなのか。(7 ペ)

○谷崎が『陰翳礼讃』の冒頭から「純日本風」と呼んでいるものは幻想にすぎません。…『陰翳礼讃』は日本文化についての名随筆とみえながら、じつは日本の近代化の歪みを映し出した傑作といわなくてはなりません。このように『陰翳礼讃』が戦前の日本の時代精神を表しているなら、戦前の時代精神について考える戦後の作品はないか。これを探しつつけて、やっとたどり着いたのが日本国憲法です。(9 ペ)

○法学部ではなく文学部で、しかも俳人がなぜ憲法について講義をするのか。…理由はいまお話ししたとおり、日本国憲法が戦後の時代精神を考えるのに絶好の教材だからです。(10 ペ)

○戦後の日本人もこの新しい時代に父母、祖父母の世代をどう乗り越えるか、あるいはどう受け継ぐか、試練にさらされてきましたが、それはそのまま憲法の歩んできた道でもあります。この点で日本国憲法は戦後的かつ国民的な第一級の文書です。(14 ペ)

○さて日本国憲法の最初の文には何が書いてあるか。一言でいえば、主権者である国

民が日本国憲法を制定するということです。(21 ペ)

○…なぜ(前文の最初で)このようなくどい書き方をしているのか。それは憲法起草者たちが戦前の明治憲法を意識し、それとの違いを強調しようとしているからです。

(23 ペ)

○…「その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行行使し、その福利は国民がこれを享受する」はアメリカ合衆国のリンカーン大統領が1863年にゲティスバーグで行った演説のあきらかな引用です。(27 ペ)

○南北戦争はすでにみたとおり北部と南部の欲望の衝突でした。しかしリンカーンはここで南部との内戦を、アメリカ合衆国建国の理想である自由と平等を守るための戦いであるという大義名分で正当化しています。その自由と平等の象徴が黒人奴隷の解放でした。(30 ペ)

○リンカーンのゲティスバーグ演説は南北戦争の意義をわずか三分間で創り出し、北部を勝利へと導いたのです。優れた政治家の言葉の威力を国内外に見せつけた演説でした。(32 ペ)

○…日本国憲法は戦勝国の「押しつけ憲法」であり、日本は自主憲法をもつべきだという批判があります。しかしこの批判は的を外しています。理由は日本文化の成り立ちとかかわっています。(34 ペ)

○日本人は昔から外国文化を熱心に受け入れ、そのなかから自分たちに合ったものを選び出し、さらに自分たちに合うように作り変えて優れた文化を築いてきました。日本文化とはまさに外国文化の受容、選択、変容を繰り返す運動体のことです。和食、和服、和室などはその産物にすぎません。(38 ペ)

○起草者たちはなぜ「国民の信託」というフィクションを日本国憲法に書きこんだのか。それは明治憲法が、天皇を日本を統治する根拠とした「万世一系」という神話に対抗するためです。(50 ペ)

○…立憲主義は最終的には国民の判断に頼らざるをえません。日本国憲法が民主主義(国民主権)をかかげている以上、最後は国民の判断に従うのが立憲主義のあるべき姿です。民主主義では国民が権力の源泉であり、それを生み出すのは選挙だからです。立憲主義を徹底すれば国民の意見を軽視することになります。だからこそ有権者は賢明でなければなりません。(67 ペ)

○…日本国憲法は幾重にも自己防衛の仕掛けを備えています。改憲に対して護憲とい

う言葉がありますが、人間が憲法を護る以前に憲法自身、自分で自分を守る力を備えた巨大な生命体なのです。(69 ペ)

○近代民主主義とは最終的に数で決着する「数の政治」です。それ以前は特権階級の少数の人びとが国を統治していましたが、市民革命によって多数の市民がそれにとって代わった、それが近代民主主義です。多数の市民の意見をどう集約するか、それには多数決しかないからです。(76 ペ)

○2014年の総選挙で自民党に投票した有権者の中には、翌年提出された安保法案に賛成した人ばかりでなく反対した人もいます。彼らは自民党の憲法改正方針に反対なのに、なぜ自民党に投票したのか。民主党に失望したからだ、あるいは景気対策を望んだからで自民党の憲法改正を支持したのではないという人もいるはずです。もしかすると自民党が憲法改正を目指していることを知らなかったという有権者もいるかもしれません。しかし理由はどうであれ自民党に一票を投じたことは改憲方針も含めて自民党を支持したことになります。これが選挙です。自民党に投票しておいて安保法案に反対しても取り返しはつきません。「自分は愚かな有権者だった」と反省するしかありません。(80 ペ)

○衆議院選挙で棄権者が多いということは有権者の多くがこのこと（民主主義とは国民に主権があるだけでなく、国民が政治の最終的な責任を取る体制であるということ）に気づいていないか、気づいていても無視しているということです。この問題はしばしば「政治への無関心」という言葉で片付けられますが、選挙の棄権者は「政治への無関心」などというものではなく、主権を放棄して責任だけ負わされる「愚かな民衆」に逆戻りした人々です。(92 ペ)

○伊藤博文は立憲君主主義の信念をもった政治家でした。この観点からの伊藤の再評価、司馬史観の洗い直しが今後、進むはずです。瀧井一博著『伊藤博文 知の政治家』は新しい伊藤博文像を打ち出した本です。(97 ペ)

○18世紀後半、アメリカとフランスで起こった二つの市民革命は市民階級が政治の主役として躍り出た政治の大衆化の始まりでした。それから200年後の今、選挙の実態や新聞の現状からみえてくるのは、大衆化によって誕生した近代という時代が、極度に進んだ大衆化によって内部から蝕まれ、空洞化しつつある姿です。恐るべきことに憲法もその一つかもしれません。(99 ペ)

○砂川事件判決（1959年）の要点をまとめると次のとおりです。

①第九条は日本の「固有の自衛権」を否定していない。

②第九条は日本が外国に安全保障を求めることを禁じていない。

③第九条が禁じる「戦力」とは日本が指揮・管理できる戦力であり、在日米軍は「戦力」にあたらぬ。

④日米安保条約のように「高度な政治性」をもつ条約は、「明白に違憲無効」でないかぎり裁判所は判断を下せない。

○「固有の自衛権」は個人の次元でいえば正当防衛にあたります。(110 ペ)

○集団的自衛権の行使は「固有の自衛権」に含まれないというのが歴代政府の見解でした。これに対して安倍内閣は 2015 年、集団的自衛権も条件付きで行使できると従来の政府見解を変更し、安保法案を国会に提出しました。……憲法を改正して、つまり国民の意思で集団的自衛権の行使を認めるのならともかく、日本国憲法の解釈によって「固有の自衛権」に含めるのは無理であり、それを認める安保法は違憲と考えなければなりません。個別的自衛権の行使を「固有の自衛権」として認める解釈が常識によるものなら、集団的自衛権の行使を「固有の自衛権」として認めないのも常識です。法律の解釈は常識的であるべきです。(112 ペ)

○司馬遼太郎のいわゆる司馬史観の最大の問題は、じっさいは右翼政府だった明治政府を中道の政府であるかのように描いてしまったところにあります。(116 ペ)

○人間同士のもめごとを解決する方法は二つあります。一つは暴力。けんかをして腕力で黙らせる。もう一つは言葉。話し合っ折る合う。同じく国と国とのもめごとを解決するにも二つの方法があっ一つは暴力による戦争。もう一つは言葉による外交です。日本の場合、前者は防衛省、後者は外務省が担当しています。……日本人がテロ組織の人質となっ身代金を要求された場合、首相が表向き「テロ組織とは交渉しない」というのはかまいませんが、外務省は裏で交渉しなければなりません。これが言葉で戦うということです。その場合、お金は有効なカードの一枚です。一人の国民を何もせずに見殺しにする政府は政府の資格がありません。(121 ペ) (これは例としてちょっと不適切であるという気がする：柳沢)

○お金や体や命にどうすれば理想をもたせられるのか。戦後日本のお手本だったアメリカは人間の欲望を肯定する社会ですが、「合衆国憲法のため」「自由のため」という近代市民社会の理想があります。それと比べると「日本国憲法のため」「平和のため」という新たな理想をもてなかつたところが、戦後日本の最大の不幸といわなくてはなりません。(123 ペ)

○民主主義が寛容であるのは民主主義という同じ土俵の上に立つた批判に対してだけ

です。たとえばナチス（国家社会主義ドイツ労働者党）のように民主主義体制の転覆を企てる勢力や民主主義の圏外にいて民主主義と敵対するイスラム教原理主義の過激派に対して、どこまで寛容でいられるか、そもそも寛容である必要があるのか、これはいま民主主義が抱える最大の問題といわなくてはなりません。（130 ペ）

○1868 年、明治天皇は天地神明に誓う形で「五箇条の御誓文」を公表しました。…その第三条には「官武一途庶民ニ至ル迄 各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメン事ヲ要ス」とあります。政府はあらゆる人々が志をとげ、もって生まれた資質や才能を開花させ不満が溜まらないように政治を行わなければならないというのです。これは日本国憲法第三条の人権規定を要約したような進歩的な内容です。（131 ペ）

○理性の 18 世紀が生み出したもの、その一つは自然科学、もう一つが近代民主主義です。（133 ペ）

○なぜ東側のイデオロギー国家は破綻したのか。その根本的な理由は人間は平等が嫌いだからです。欲望の動物である人間は少しでも他人よりお金を稼ぎたい、偉くなりたいと思っています。そのような人間が平等を要求するのは上の者に対する嫉妬以外の何ものでもありません。（138 ペ）

○21 世紀に入って世界は冷戦の時代から新たな聖戦の時代へと移りました。いま地球上で起きているテロと戦争の応酬は一見、アメリカ、フランスとイスラム過激派の戦いのように見えますが、根底に横たわっているのは近代民主主義とそれを認めない別の価値観を持つ集団との深刻な反目です。（146 ペ）

○憲法は憲法学者だけのものではありません。主権者である国民一人一人のものです。当然のことながら憲法自体も第一に国民に読まれることを望んでいます。そして国民一人一人みな違いますから、憲法の解釈をはじめ憲法の受け止め方は本来、多様であるべきものです。そのような状態を「憲法の成熟」と呼ぶならば、憲法施行から 70 年になろうとしているのに現状はあまりにも未熟な状態といわなければなりません。政治家でもなく憲法学者でもない人間がこの本を書いたのはこのような理由からです。

（147 ペ）

○表現の自由の抱える現代の問題は、言葉をはじめとする表現で他人を傷つけることまで憲法は保障しているのかという、まさに言葉の問題です。加害者による手記の出版、ヘイトスピーチ、ムハンマドの風刺。どれも表現の自由を主張するだけでは理不尽な結果を招いてしまいます。賢明な解決のためには言葉にも理性、礼節、中庸という市民革命以前の 18 世紀的な思想がふたたび求められています。（148 ペ）

\*

「《時代が新しいから新しい思想が必要になる》というわけでもないのだな」ということを感じた。こういう時代だからこそ、「古典を学び直す」ことが必要なのかもしれない。特別な結論ではないが、爽やかな読後感。

- ◎ローレンス・A・カニングラム著／長尾慎太郎監修『バフェットからの手紙（第4版）』（Pan Rolling 株式会社）（私物）
- ◎飯野高広著『紳士服を嗜む』（朝日新聞出版・2016年）（私物）
- ◎広瀬和生<sup>かずお</sup>著『談志の十八番—必聴！名演・名盤ガイド—』（光文社新書・2013年）（私物）
- ◎吉田敏浩著『「日米合同委員会」の研究』（創元社・2016年）（私物）
- ◎古山浩一著『万年筆の達人』（柘出版社・2006年）（私物）
- ◎川島隆太監修・横田晋務<sup>すすむ</sup>著『やってはいけない脳の習慣』（青春出版社・2016年）
- ◎板橋悟<sup>いたばしさとる</sup>著『なぜ分数の割り算はひっくり返すのか』（主婦の友社・2016年）
- ◎水島広子著『自己肯定感、持っていますか？』（大和出版・2015年）
- ◎立川志の輔著『落語家』（実業之日本社・1997年）
- ◎井手英策<sup>えいさく</sup>著『18歳からの格差論』（東洋経済新報社・2016年）
- ◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『オードリー・ヘップバーン』（筑摩書房・2015年）
- ◎佐渡島庸平・里中満智子他著『人生と勉強に効く学べるマンガ100冊』（文藝春秋・2016年）
- ◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『岡本太郎』（筑摩書房・2014年）
- ◎NHKスペシャル「私たちのこれから」取材班編『超少子化—異次元の処方箋—』（ポプラ新書・2016年）
- ◎川名壮志<sup>そうじ</sup>著『密着・最高裁のしごと—野暮で真摯な事件簿』（岩波新書・2016年）
- ◎瀬木比呂志著『絶望の裁判所』（講談社現代新書・2014年）（私物）
- ◎福地孝宏著『学級経営サポートBOOK・あわてないためのトラブル対処術』（明治図書・2017年）（私物）

著者は1962年生まれ。愛知県名古屋私立中学校教諭（理科）、他に著書多数。「アクティブ・ラーニング」が唱えられる前から実質的に「アクティブ・ラーニング」に相当する授業を実践してきている人らしい。独自の雰囲気のあるホームページを持っている（<http://www.ons.ne.jp/~taka1997/index.html>）。愛知県名物の「管理教育」の



雰囲気はあまり感じられない。「全国区向け」にマイルドに味付けしているのかもしれない。読みやすい。

読みやすさの秘密はその構成にありそうだ。仮説実験授業の「問題→予想→討論→実験」と同じように、「トラブル場面→NG 対応→NG の理由→OK 対応→格言」というサイクルが見開き 2 ページ単位で繰り返される構成となっている。

たとえば、「授業中に A 君が《〇〇がわからない》と言い出した」→「《そんなことはありえません。小学生でも知っていますよ》と答え、授業を進めた」→「バカにしたような対応はダメ」→「《〇〇について説明してくれる人はいませんか》とクラス全体に問いかけるのが正しい」→「格言：《わからないので教えて下さい》と子どもにお願いできたら授業の達人」…という一連の流れ。

恐らく複数の荒れた中学校を経験してきたと思われる著者の対応術には学ぶものが多い。

適用対象生徒は小学校高学年から中学生までだが、私の読んだ感触では高校でもそのまま通用する項目が多いし、アレンジすればほとんどの項目が高校でも使えると思うし、高校でも活かす必要があると思った。新規採用でいつも前向きな隣の席の M 先生に購入を奨めた。

◎鍵本聡著『計算力を強くする』（講談社ブルーバックス・2005 年）

長野高校に勤めていた時に初めて読んだ。昨年末から篠ノ井高校生への化学の授業における計算指導を体系的に行う必要を感じはじめ、篠ノ井高校図書館で発見し再読。

良い本だと思う。化学計算は独特の手法が要求されるので、この本そのままではあまり役立たないが、問題配列をはじめ、参考にすべき点は非常に多い。

これをヒントとして作業書のような形式の問題集をつくることができれば私にとっても、生徒たちにとっても大きな意義があるだろう。すでに何枚かカードを作成しはじめているので、ゆくゆくはカードを並べ替えたり補充したりして作業書ができればいいな…と考えている。この本はいつも手許に置いておく必要がありそうだ。書店に注文しようか…と考え中。

たとえば、 $38 \div 54 \times 270 = ?$  という問題を 15 秒以内に暗算で処理する方法。

答えは  $38 \times (270 \div 54) = 38 \times 5 = 190$  というやり方。化学計算でも大いに役立ちそうである。

◎降幡廣信著『民家建築の再興』（鹿島出版会・2009年）（私物）

◎島地勝彦著『知る悲しみ—やっぱり男は死ぬまでロマンティックな愚か者』（講談社・2011年）（私物）

この本は純粋にエンターテインメント作品。内容について詳しく語るのは野暮というもの。珠玉のエッセイ集。こういう本，好きである。ヨーロッパの富豪の資産運用方法についてチラリと凄みのあることが書いてあった。

◎佐々木常夫著『図解・人を動かすリーダーに大切な40の習慣』（PHP・2013年）（私物）

通勤途中に買い物で寄ったコンビニの棚に並んでいたものを立ち読みして即買い。

100%ビジネス書だが，部長，課長などの管理職を教職員に，また，部下を生徒に置き換えれば学校に応用できることが非常に多く含まれている。

一年，一カ月，一週間単位で仕事の計画を立て，優先順位で実行に移すことは教職員の仕事にそのまま適用できる。また，どのように顧客や部下と接するかという方法論は，保護者や生徒への対応に応用することが可能である。

そのまま実行する必要はない。今の自分の方法と比較して，より良いと思われる方を取ればよい。自分の仕事を点検するチェックリストとして，折に触れて読んでみることは有用であると思った。

◎柵（えい）出版社編『チョークアート』（ムック）（柵出版社・2016年）（私物）

◎ヴァレリー・マキーン著『チョークアート・ボタニカル塗り絵』（2016年・ブティック社）（私物）

◎Asami 著『大人黒板—おしゃれなチョークアートの描き方—』（2016年・ソシム株式会社）（私物）

以上三冊は卒業式，入学式の黒板を華やかに飾る作品を描いてみたくなったのでネット書店で検索して購入。三者三様に良さがある。これもアドラー著『本を読む本』にある読書の「最終段階」＝「シントピカル読書」の一種かもしれない。

すでに篠ノ井高校の本年度卒業クラスの担任，来年度入学クラスの担任に賛同してもらって黒板のスペースを確保した。

現在，どんな作品を書いてみようかと構想中。夢があつてなかなか楽しい。最終的

には自分がクラスを持ったときに自分のクラスの黒板を華やかにするためにいろいろ描いてみたいと思っている。

生徒たちが気に入ってくれて、できた作品をバックにスマホで記念写真を撮影してくれたりしたら最高にうれしいが、最初だから、あまり期待しすぎないことも大切だと思っている。

## ◇まとめ

今月、思ったこと。音楽鑑賞でも仕事でも読書メモの作成でも日々の生活でも、やっていることはみんな一緒。ひとことで言うとそれは「情報処理」である。

音楽鑑賞も授業も本を読んで文章を書くということも、毎日生活していくということも全部、「情報を取り入れて、脳内で処理・解釈して、必要に応じて臨機応変に出力する」という点で、やっていることはすべて同じことである。もちろん、音楽鑑賞では「気に入った演奏家のCDは芋づる式に買う（演奏会に行く）。気に入らない演奏家のものは買わない（チケットを買わない）」という出力をするという点で「時間差」はあるけれど、やっていることはみんな一緒。ある程度、負荷がかかった方が生きている実感が湧く、というのが今のところの私の考えである。

「食物を摂取して、エネルギーを得て活動し、呼吸や排泄をしながら生きていく」営みにも似ている。何を食べるか（食べないか）ということは大事なことだと思う。

この理論に拠れば「読書メモ」はささやかな私の知的な活動の「排泄物」のようなものだから、出版するつもりはない。著作権上、大きな壁もある気がする。

ただ、知的なトレーニングとして、この手法は有用だと思うし、励ましの声ももらえるので続ける気になれている今日この頃です。上田仮説サークルの皆様、今月もおつきあいいただき、ありがとうございました。2017年2月16日（木）脱稿。

追記 明日 17日（金）は教育センターで岩藤英司先生〔東京学芸大附属高等学校理科教諭〕の実験講習会に参加する。楽しみだ。